

-九州建設技術交流会だより-

VOL. 3
2011.1
第2号

会長挨拶

九州建設技術交流会会長
(九州地方整備局企画部長) 清水 亨 氏



本日は今年度第二回目の九州建設技術交流会ということで、112 名の方々に参加して頂きました。大変多数の参加ありがとうございます。事業仕分けなど厳しい状況ですが、国土交通省では情報化施工や国民の安全・安心を確保していくために社会資本の計画的な補修や寿命を延命化するなど、予防保全型の維持管理技術に取り組んでいかなければならないと思っています。本日は「基盤整備の現状と将来」ということで、九州大学名誉教授の松下先生にお話して頂きますが、その後関連した意見交換を実施する予定になっております。

良好で高品質な社会資本を整備してそれを良い状態に維持するというのが九州地方整備局の重要なミッションの一つです。そのためには、本日出席頂いているような産学官のコミュニケーションによる連携というものが非常に重要であると考えています。元旦に NHK スペシャルで「ニッポンの生きる道」という番組がありましたが、日本は刷り合わせの技術を組み合わせてソリューションとして売っていく事が、これからの日本の課題だということも言われておりました。それを考えるとより一層、産学官のコミュニケーションが重要になるのではないかと思います。最後になりますが、建設技術の今後の益々の推進・発展に向けてこの交流会が活かされ、産学官関係者の皆様方の益々の交流・連携に繋がる事を期待しまして、簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。

《プログラム概要》 H23.1.7

●挨拶：九州地方整備局企画部長 清水 亨

●講演：「基盤整備の現状と将来」

九州大学名誉教授 松下博通

●維持管理に関する情報提供：

①「福岡市の公共施設の維持管理を取り巻く状況と
アセットマネジメントの取り組みについて」

福岡市財務局技術監理課 宮本能久

②「橋をめぐる今日的话题と対応について」

九州地方整備局 道路部道路保全企画官 山川武春

③「維持管理に関する設計コンサルタントの対応
ー社会資本の長寿命化に向けてー」

中央コンサルタンツ(株) 福岡支店 愛敬圭二

④「ゼネコンにおける構造物長寿命化への取り組みと
その現状について」

前田建設工業(株) 九州支店 中西隆夫

●会場を交えた意見交換



【交流会の開催状況】

当日参加者数

112名



講演

「基盤整備の現状と将来」
九州大学名誉教授

松下 博通 氏



公共事業とは公益のために行う事業であり、行政府が社会資本の整備を目的として実施する事業であるが、基盤整備が進むにつれ恩恵を当然のことと思うようになる。発注者は社会基盤整備の役割を積極的に発信すべきである。構造物維持管理の現状は事後保全型であるが、予防保全型に転換して LCC の低減を図る必要がある。また、落札率の低下や予定価格の低下が落札価格の低下を招いており、品質の低下につながっている。発注者における、イニシャルコストから LCC 重視への転換など積算システムの改善、不良業者の排除、企業における適正利潤の確保が望まれる。

発注者は、公共事業の効用について情報発信するとともに品質の良否を見抜く力と優れた注文書を作る能力が求められており、納税者の立場からマネジメントする能力や専門技術者としての判断力を養わねばならない。建設業は建設活動を通じ社会の要請に応え、雇用を創出し、適正利潤を得ることにより納税義務を果たすものである。技術者としての倫理観と誇りを持ち、発注者とのパートナーシップ（連帯と役割分担）を強化しながら技術の熟練化の推進が望まれる。

～維持管理に関する話題提供～

「福岡市の公共施設の維持管理を取り巻く状況とアセットマネジメントの取り組みについて」 福岡市財政局技術監理課 宮本 能久氏

宮本氏はアセットマネジメントに関する福岡市独自の取り組みについて話をされました。福岡市が保有する建物は 611 万 m² で、道路が 3800km、橋梁は 2000 橋、下水道函渠は 6740km だそうです。道路予算全体は 300 億程度とピーク時の 3 割程度になっており、補修率が 1/10 程度を占めています。橋梁は 26 年以上前に建設されたものが 8 割を占めており、かなり老朽化しているそうです。福岡市には「2011 グランドデザイン」があり、財政局の統括部局で基本方針を作成しアセットマネジメントの予算を統括して配分する方法で推進しているとのこと。今後、サービス価値・環境価値・付加価値の効果を定量化しアセットマネジメントの効果を市民に説明していきたいと考えられています。

「橋をめぐる今日的话题と対応について」 九州地方整備局 道路部道路保全対策官 山川 武春氏

山川氏は「橋をめぐる今日的话题と対応について」と題して、全国の橋梁を直轄、自治体に分けて現状を説明されました。全国自治体の内、橋梁点検を行っている自治体は 1 年半前に 10% だったのが H22 年 3 月では 62% と大幅に増加しており、平成 24 年度に 100% を目指しているそうです。地方自治体では予算が確保できず点検できない状況だったが交付金の導入により改善しているそうです。より深刻な問題は技術者不足であり、九州地方整備局では橋梁技術講習会を地域で開催しているとのこと。全国的な今後の対応としては、標準化した点検の確立や全国的な橋のデータベース共有化、アセットマネジメントの確立、行政の持つ技術力・専門力の維持向上が必要とされています。

「維持管理に関する設計コンサルタントの対応ー社会資本の長寿命化に向けてー」 中央コンサルタンツ(株) 福岡支店 愛敬 圭二氏

愛敬氏は建設コンサルタントの立場で社会資本の維持管理について述べられました。インフラの維持管理では、点検結果だけでなく詳細調査結果や補修設計の結果、工事の結果をデータベースとして残すことが非常に重要であると述べられました。予防保全でコンサルタントが行うべき事はコスト削減であり、自治体の体力に配慮しながら LCC の設定を行う必要があるとのこと。すなわち、コンサルタントは長期にわたって実現可能な点検を提案することです。また、誤診を避けるため学識者との相談体制構築や技術者教育、勉強会の定期開催、新技術活用の提案なども必要と考えられています。最後に、維持管理に関しては、耐震性能の向上や最新基準への適用など総合的な設計を提案して生きたいとのこと。

「ゼネコンにおける構造物長寿命化への取り組みとその現状について」 前田建設工業(株) 九州支店 中西 隆夫氏

中西氏は、ゼネコンの立場で構造物長寿命化への取り組みとその現状について話されました。構造物維持補修における業界を取巻く外的環境は、事業費の縮減や維持修繕工事費比率の増加、社会資本ストックの増大や社会基盤の高齢化、長期化する景気の低迷とのこと。業界内部では維持補修の必要性について認識はあるが、経営基盤の弱体化や余剰人員の増加などにより対応する余力が不足しているのではとされています。建築分野ではリニューアル事業部がしっかりしているが、土木分野では取り組み方を模索している状態のようです。また、水中橋脚の耐震補強や農業用溜池の導水路トンネル補修など事例を紹介されました。今後、維持管理、保全事業における建設会社の役割を明確にし、建設業界が安心して社会基盤整備に傾注できる体制作りを願っているとのこと。

《意見交換》

松下九大名誉教授を座長とした意見交換会では、構造物の長寿命化について、話題提供者のみならず会場からも施工会社や設計コンサルタント大学関係者など積極的な発言がありました。維持管理の重要性や技術力の向上、補修材料の是非、大学での維持管理に関する講義の必要性など多岐にわたるものであり、さらなる産学官連携の必要性が示された意見交換会でした。最後に清水会長が、今後決められた範囲ではあるが維持管理分野のシェアが確実に広がるであろう事や新技術、新工法出る余地が大きな分野であり、産学官が一体となり交流会のような場で解決策を提供できればよいと締めくくられました。



【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下記事務局までお寄せください。

【発行者】九州建設技術交流会

●官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官
TEL : (092) 471-6331 FAX : (092) 476-3483

●学＝九州大学大学院工学研究院
TEL : (092) 802-3372 FAX : (092) 802-3372

●産＝(社)九州建設技術管理協会
TEL : (092) 471-0189 FAX : (092) 414-0767
E-mail : kouryukai@kyugikyoo.or.jp

事務局